

研究・調査報告書

報告書番号	担当
240	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Incidence and risk factors for vertebral fracture in women and men: 25-year follow-up results from the population-based Framingham study.</p> <p>男女の脊椎(椎体)骨折の発症と危険因子 —住民を対象として 25 年追跡したフラミンガム研究より—</p>	
執筆者	
Samelson EJ, Hannan MT, Zhang Y, Genant HK, Felson DT, Kiel DP.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Bone Miner Res. 2006 Aug;21(8):1207-14.	
キーワード	
人口研究、脊椎(椎体)骨折、発症率、危険因子、女性、男性	
<p>要 旨</p> <p>背景： 将来の脊椎骨折の危険度が増加している対象を明らかにするために椎体骨折の危険因子について中年男女を調査した。</p> <p>方法： フラミンガムコホート研究の参加者で、1967-1969 年のベースライン調査、1992-1993 年の追跡調査時に X 線検査を受けた者を対象とした。骨折の発生は半定量的な測定方法を用いて評価した。すなわち、初期に正常であった椎体が追跡の時点で少なくともやや変形、つまり椎体の高さが 20-25%以上減少していれば骨折の発生とした。危険因子の情報についてはベースライン調査時点かそれ以前に得た。</p> <p>結果： 初期の検査の時点で椎体骨折の頻度は 14%で、男女で同様であった。しかし追跡時点での椎体骨折の発生頻度は女性が 24%で男性の 10%より多かった。男性では飲酒により椎体骨折発生の危険度は増した。多変量調整したオッズ比は 1 週間に 120ml(4 オンス)以上飲酒する中年男性では 4.61、1 週間に 30-89ml(1-3 オンス)飲酒する中年男性で 1.78 であった。先行研究では椎体骨折との関連が指摘されている年齢、身長、体重、握力、身体活動量、第二中手骨の皮質領域の骨密度、女性のエストロゲン服用については今回の検討では椎体骨折との関連は認められなかった。骨折が少なくとも中等度以上の者に制限しても結果は同様であった。しかし研究開始時点で中等度から重度の椎体骨折のあった者は無かった者に比べ追跡中に中等度から重度の椎体骨折のさらなる発症率が 5 倍であった。</p> <p>結論： 中等度以上の椎体骨折の存在と男性での飲酒以外は、中年層で今回検証した椎体骨折危険因子のほとんどは 25 年後の椎体骨折の発症と関連しなかった。先行研究との結果の解離の理由は明らかでないが、椎体骨折の危険因子は、椎体骨折の長期リスクよりは高齢期のいわゆる短期リスクでより明瞭になるのかもしれない。</p>	